湖南高校だより

福島県立湖南高等学校
信南学校
発行責任者
校長
安倍真一郎

第五十三回卒業式挙行される。

平成二十八年三月一日（火）、第五十三回卒業式が本校体育館において挙行され、卒業生三十八名を送り出しました。

式場には、福島県議会議長代理として郡山市選出の柳沼純子福島県議会議員を始め、多くのご来賓の皆様にご臨席賜り、また、晴れの門出を共に祝おうとたくさんの保護者の方々にもご来場いただき、たくさんの方々に見守られ、卒業式を挙行しました。

誰もが緊張して開式を待つ静寂の中、「卒業生入場」の号令で、入場が始まり、会場は割れんばかりの拍手に包まれました。卒業証書授与では、一人ひとりがクラス担任より呼名され、しっかりとした返事には、高校三年間の成長が見られました。校長の式辞、柳沼県議会議長代理、石田ＰＴＡ会長、椎谷同窓会長の祝辞、在校生代表石田生徒会会長からの送辞。そして、滝田前生徒会長による答辞。滝田前生徒会長による答辞は、あっという間に過ぎた高校生活を振り返り、目に涙を浮かべる卒業生・在校生の姿も印象的でした。

国歌、校歌、式歌を歌う歌声も素晴らしく、多くの感動を残し卒業式は閉式しました。

卒業生諸君の今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

卒業おめでとう！

佐藤譲敬先生

滝田前生徒会長による答辞

３年Ｂ組の最後のＬＨＲ

３年Ａ組の最後のＬＨＲ

除雪ボランティア

二月十日（水）に本校の伝統行事の一つである第二十一回除雪ボランティアが実施されました。

生徒の感想

湖南高校に入学して初めての除雪ボランティアを体験しました。今までテレビで見ていただけだったので、自分がいざ雪かきをするとなると、前日から楽しみな気持ちが湧いてきました。三代のお年寄りの家は思っていた以上に雪が積もっていて驚きました。雪をかいて地面が見えると、とてつもない爽快感を感じることができました。おばあさんに「どうもありがとうね。」と言われた時はとても嬉しかったです。雪は硬く、寒くて大変でしたが、その一言で疲れも吹き飛びました。ボランティアをすることによって、地域の方々と触れ合うこともでき、楽しい時間でした。また、ボランティアの大切さを改めて知る機会となり、良い経験になりました。（一年Ｂ組のある生徒）

除雪ボランティアの様子

本校卒業の大学生と語る会

二月二十六日（金）の放課後、進学希望者を対象に本校平成二十四年度卒の國學院大學法学部四年渡部純平さんをお招きして、大学生と語る会を実施しました。

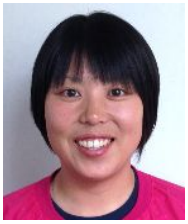
生徒の感想

先輩の話を聞いて、大学と高校の違いがよく分かりました。九〇分授業で、服装や頭髪は自由。朝のＳＨＲもなく、登校時間も決まっていないけど、その分、責任が重くなること。大学に入ると、全国に友人ができ、楽しい思い出が増え、刺激し合って、目標が高くなること。大学は大変そうだけど、とても楽しそうだなと感じました。

多くの大学のオープンキャンパスに参加し、自分の目標に合った大学を見つけること。英語は必ず必要になるので、苦手ならば基礎から繰り返し、苦手意識をなくすこと。先輩は休みの日は六時間ぐらいは勉強していたそうです。私ももう三年生になります。進路実現のために頑張っていこうと改めて思いました。（二年Ａ組のある生徒）

学校スローガン「可能性の発見、自分に挑戦、夢を形に」

リレートーク



阿久澤→五十嵐→浜田→齋藤→染谷→木村→中野→箭内奨→伊藤→？

みなさんは自分が生まれ育った故郷をどう思っていますか。私は自分の郷里をどうしても誇りに思うことができない時期がありました。

会津の片田舎で生まれ、保育所でも同級生は十人だけ、中学生になってもコンビニやゲームセンター、レンタルショップも近くにありませんでした。クラス替えも経験できなかったので、外の世界に強く憧れを抱きました。

そこで、進学先には、下宿をしなければ通学できないような高校を強く希望しました。それだけ「早く何もない田舎から逃れたい。」という思いが強かったのです。

高校に進学すると、今まで経験出来なかった大人数での授業や活気にあふれる部活動に打ち込み、充実した日々を送ることができました。しかし、心の底ではホームシックに捕らわれる生活でもありました。また、下宿先は親戚の家にお世話になったため母親から昼の弁当、掃除、洗濯を自力でこなすことが条件となっていて、高校一年生の自分にとって辛くて仕方がありませんでした。

「自分で決めた事に弱音を吐いてはいけない。両親に心配をかけたくない。」とよく自分を叱咤していたことを覚えています。結局、勉強と部活動で休む暇もない忙しさの中で、「故郷に帰りたい、家族と一緒に食事をしたい」という気持ちを無理矢理押し殺し、窮屈な高校生活を送っていました。そんなとき、ただ憧れだけで進路決め、行動してしまった自分に後悔もしました。

人は無い物ねだりで、周囲を羨ましく思うものです。それをわがままだと感じる人もいるでしょう。しかし、「無い」ものを求め、多くのことを経験し、努力することは決して無駄なことではないと思います。今だから言えるのかもしれませんが、努力する中で挫けそうになった時、諦めない精神を身につけさせてくれたのがこの高校生活での経験でした。だから、無い物ねだりは決してわがままではありません。私は親元を離れ、頑張ることで新たな世界を手に入れました。逃げ出したい時もあったけれど、今の自分にプラスになっています。だから憧れにチャレンジしてみるのも悪くありませんよ。

今の私は故郷を誇りに思っています。帰郷すると、幼い頃と変わりなく近所の方が声をかけて下さり、都会では決して味わえない田舎の景色や食べ物、空気、そして家族の笑顔が私の疲れを癒やしてくれます。次田舎に帰れる日を楽しみに、仕事を頑張ろうと思います。（伊藤恵美・いとうめぐみ・保健体育・二年Ａ組副担任）

学習時間調査結果

考査期間の十日間の学習時間を調査結果です。

＜平均＞

１年Ａ組	21.4h
１年Ｂ組	24.0h
２年Ａ組	18.1h
２年Ｂ組	15.4h

＜トップ５＞

１位	58.5h	２Ａ	Ｓさん
２位	56.0h	１Ａ	Ｎさん
３位	54.0h	２Ａ	Ｍさん
４位	45.0h	１Ｂ	Ｒくん
５位	43.5h	２Ａ	Ｔさん

＜克己心＞　チャンスやヒントはいろんなところに転がっています。それを逃さないで、掴める人となってください。これがその一助となることを願っています。